

2024年3月期 第1四半期決算 説明資料

2023年8月9日
日本貨物鉄道株式会社

1. 2024年3月期 第1四半期決算

2. 2024年3月期 業績見通し

1. 2024年3月期 第1四半期決算

連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2023年3月期 第1四半期累計	2024年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業収益	450	453	+2	+0.6
営業費用	449	457	+8	+1.9
営業利益	1	-4	-5	-
経常利益	-0	6	+6	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2	4	+2	+117.8

単体経営成績

営業収益	362	366	+4	+1.2
営業費用	368	377	+9	+2.7
営業利益	-5	-11	-5	-
経常利益	-7	0	+7	-
四半期純利益	-1	0	+2	-

- 連結営業収益は、運輸収入は、自動車部品が自動車の生産が回復傾向にあり、農産品・青果物が北海道、九州地区の玉ねぎの収穫が順調であったことを受け前年を上回ったが、その他の品目では原材料費高騰に伴う需要低迷等の影響が続き、前年を下回った。しかし前年に稼働した東京レールゲートEAST等建物貸付が好調だったため、全体では増収。
- 連結営業費用は、減価償却費や、原材料費高騰による経費の増加により、営業利益は赤字。移転協力金の受取等により経常利益、親会社に帰属する当期純利益については、黒字。

1. 2024年3月期 第1四半期決算

(単位：億円、単位未満切捨て)

セグメント別状況

		2023年3月期 第1四半期累計	2024年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	403	404	+1	+0.5
	営業利益	-26	-32	-6	-
不動産事業	営業収益	50	50	-0	-0.6
	営業利益	25	26	+0	+1.1
その他	営業収益	10	11	+1	+14.8
	営業利益	0	1	+0	+53.0

(単体) 事業別状況

鉄道事業	営業収益	320	324	+4	+1.3
	営業費用	352	361	+9	+2.8
	営業利益	-31	-37	-5	-
関連事業	営業収益	41	41	+0	+0.0
	営業費用	15	15	-0	-0.6
	営業利益	25	26	+0	+0.4

- 鉄道ロジスティクス事業は、自動車部品、農産品・青果物では増送、その他の品目で景気低迷による需要減が続き減送となり運輸収入は減収となったが、前年に稼働した東京レールゲートEASTの効果で増収。しかし、減価償却費や原材料費高騰に伴う経費が増加し赤字拡大。
- 不動産事業は、マンション販売や既存建物貸付などで概ね堅調に推移しほぼ前年並み。
- その他事業は、リース事業でフォークリフトの新規リース開始等により増収、増益。

1. 2024年3月期 第1四半期決算

連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 第1四半期実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,369	4,411	+42	流動資産 683億円 (対前期末 +49億円) 固定資産 3,727億円 (対前期末 -7億円)
負 債	3,408	3,444	+36	グループ内金融 63億円 (対前期末 +19億円)
純 資 産	960	966	+5	
自己資本比率	20.7%	20.7%	-0.0	

単体財政状態

資 産	4,022	4,035	+13	流動資産 479億円 (対前期末 +21億円) ・現金及び預金の増 +37億円 固定資産 3,556億円 (対前期末 -7億円)
負 債	3,357	3,369	+12	当期末長期債務2,089億円 (対前期末 +90億円) ・社債 300億円 (対前期末 +100億円) ・有利子借入 943億円 (対前期末 -9億円) ・無利子借入 845億円 (対前期末 ±0億円) 前受金等の増 +30億円 第三セクター線路使用料等未払金の減 -131億円
純 資 産	665	666	+0	

- 2023年6月にグリーンボンド（社債）を発行し金融市場より100億円調達。
- 震災・大雨・噴火に対応したコミットメントライン（貸付限度額210億円）を継続。当期まで利用なし。

1. 2024年3月期 第1四半期決算

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2023年3月期 第1四半期累計	2024年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	-5	22	+28	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	-54	-66	-12	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	10	106	+95	+900.1
現金及び現金同等物の増減額	-49	61	+111	-
現金及び現金同等物の期末残高	271	303	+31	+11.7

単体キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	-3	25	+28	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	-57	-68	-11	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	-5	80	+86	-
現金及び現金同等物の増減額	-66	37	+103	-
現金及び現金同等物の期末残高	160	179	+18	+11.5

- 連結の営業活動によるキャッシュ・フローは、前受金の増加等により流入額が増加。投資活動によるキャッシュ・フローは、賃貸事業用資産や総合会計システムの取得等により流出額が増加。財務活動によるキャッシュ・フローは社債の発行等で流入額が増加。現金及び現金同等物は期首から61億円増加し、期末残高は303億円。

1. 2024年3月期 第1四半期決算

品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2023年3月期 第1四半期累計	2024年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
			増減	%
輸送量	6,163	6,259	+95	+1.5
コンテナ	4,496	4,415	-80	-1.8
農産品・青果物	269	283	+13	+5.0
化学工業品	403	385	-17	-4.4
化学薬品	306	277	-28	-9.3
食料工業品	767	744	-23	-3.1
紙・パルプ	499	481	-18	-3.7
他工業品	312	306	-6	-2.0
積合せ貨物	802	796	-5	-0.7
自動車部品	143	171	+28	+19.9
家電・情報機器	87	86	-1	-1.2
工口関連物資	108	103	-4	-4.4
その他	794	778	-16	-2.1
車扱	1,667	1,843	+176	+10.6
石油	1,167	1,198	+30	+2.6
セメント・石灰石	220	357	+137	+62.2
車両	168	176	+7	+4.4
その他	110	111	+0	+0.7

- コンテナは、半導体不足の解消が進んだ自動車部品、前年が作柄不良の影響を受け低調だった農産品・青果物が増送となった。一方で、需要低迷が続く低調に推移した化学薬品・化学工業品などその他の品目では減送となりコンテナは前年を下回った。車扱は、顧客の生産計画の変更があったセメント・石灰石、行動制限の緩和によりガソリン・軽油などが増加した石油を中心に増送となり前年を上回った。コンテナ・車扱全体は、前年を上回った。

1. 2024年3月期 第1四半期決算

2. 2024年3月期 業績見通し

2. 2024年3月期 業績見通し

連結

(単位：億円、単位未満切捨て)

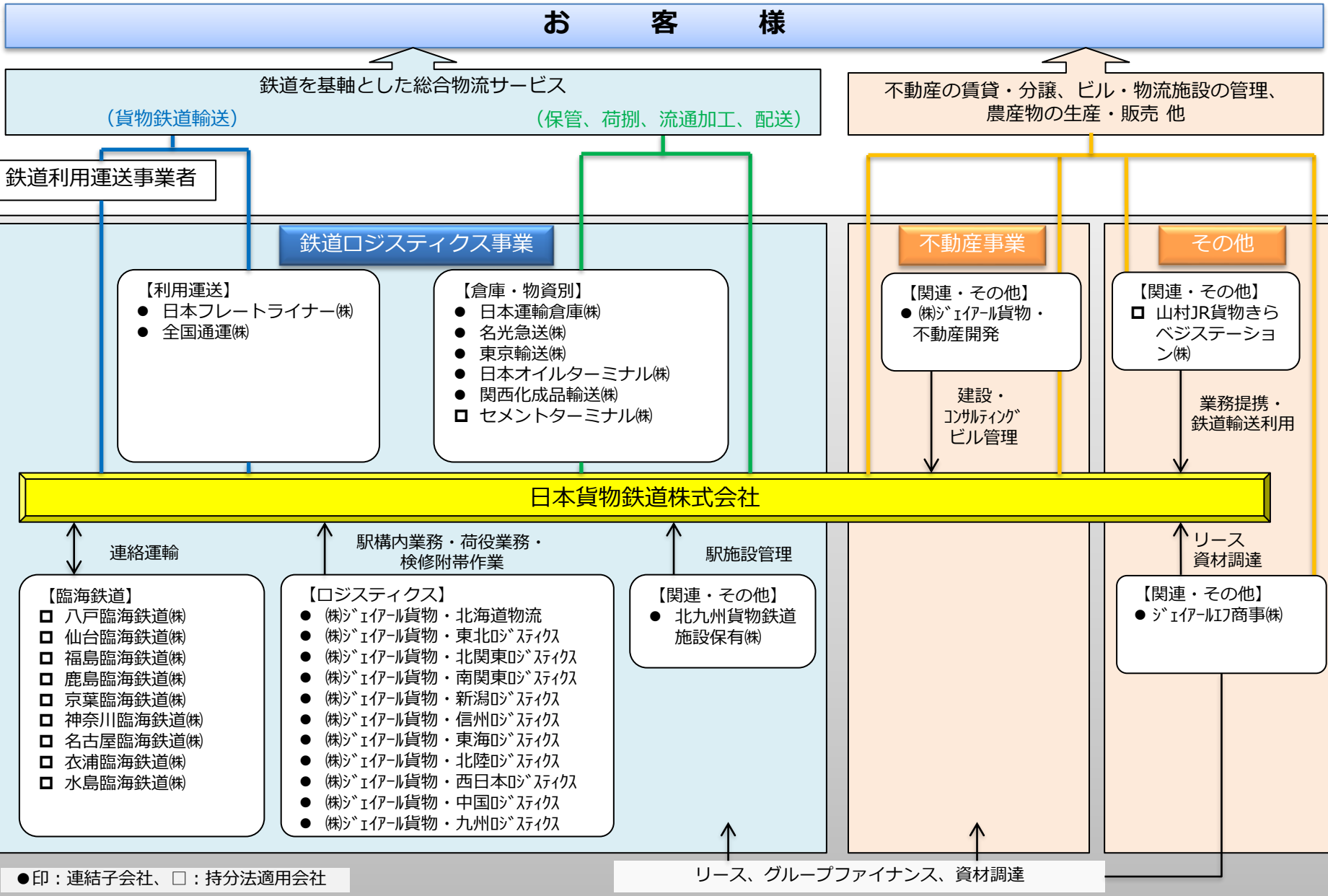
	2023年3月期 実績	2024年3月期 見通し	対前年同期		2024年3月期 前回見通し (2023.5.12)
			増減	%	
営業収益	1,876	1,975	+98	+5.2	1,971
営業利益	-36	32	+68	-	32
経常利益	-43	36	+79	-	36
親会社株主に帰属する 当期純利益	-40	12	+52	-	13

単体

営業収益	1,522	1,619	+96	+6.4	1,615
営業利益	-54	15	+69	-	15
経常利益	-63	20	+83	-	20
当期純利益	-52	2	+54	-	3

- 連結営業収益は、自然災害の発生や需要低迷が続いているものの、物流の2024年問題に起因する輸送需要の取込みやモーダルコンビネーション促進の取組みを通じた輸送量の拡大、及び東京レールゲートEASTの稼働の通期化により増収を見込む。
- 連結営業費用は、原油高騰等に起因する電力料金等の増の影響により費用全体では増加を見込む。安全確保に向けた取組みは着実に実施する。
- 2024年3月期見通しでは連結、単体で経常利益の黒字を確保する。

〔当社グループの事業系統図〕



※2023年6月30日現在 秋田臨海鉄道は2023年5月22日に解散しました。